

人間社会研究科の案内・指導内容

1. 人間社会研究科案内
2. 人間社会研究科指導内容

履修概要

1. 人間社会研究科修士課程授業科目表（情報社会専攻）
2. 大学院修士課程情報社会専攻における履修モデルについて
 - 2.1 情報社会専攻「情報社会システム教育研究分野」の履修科目
 - 2.1.1 履修モデルA
 - 2.1.2 履修モデルB
 - 2.1.3 履修モデルC
 - 2.2 情報社会専攻「メディアデザイン教育研究分野」の履修科目
 - 2.2.1 履修モデルA
 - 2.2.2 履修モデルB
3. 人間社会研究科修士課程授業科目表（心理学専攻）
4. 大学院修士課程心理学専攻における履修モデルについて
 - 4.1 心理学専攻「実験心理学教育研究分野」の履修科目
 - 4.1.1 履修モデルA
 - 4.1.2 履修モデルB
 - 4.2 心理学専攻「臨床心理学教育研究分野」の履修科目
 - 4.2.1 履修モデルA
 - 4.2.2 履修モデルB

教職課程

1. 本学で取得できる専修免許状の種類と免許教科
2. 教職課程の登録方法
3. 専修免許状取得に必要な単位の修得方法
4. 専修免許状の申請
5. 教員採用試験
6. 模擬試験・教職学生ボランティア・学校インターンシップ
7. 教職センター利用（相談・支援）

人間社会研究科では、情報技術と、行政・経営、映像・音響など他分野との融合領域を網羅した情報社会専攻、心理学の高度でより専門的な知識と技能を持った研究技術者や公認心理師(国家資格)、臨床心理士の養成を目的とした心理学専攻の2専攻を設置しております。また本研究科では、最新の研究設備を備えるとともに、学内外で幅広く先導的に活躍する優れた教授陣が指導にあたります。社会で即戦力として活躍できるプロフェッショナルを養成すると同時に、地域の研究拠点としても活動しています。

情報社会専攻

本専攻には、情報社会学科における教育内容と連動して、情報社会システム教育研究分野とメディアデザイン教育研究分野の2分野があります。各分野では、情報技術力、法律や経済などの社会知識、映像・音響の創造的表現力など幅広い要素を核に、高度な知識と確かな技術を身につけた人材の養成を目指しています。

◆情報社会システム教育研究分野◆

行政知識と経営知識、および、情報技術の習得を知識基盤とした行政情報システムやビジネス情報システムの創成を担う人材を養成します。修了後は、ITプロジェクト・マネージャーやITコンサルタント、企業経営とIT戦略の双方に責任をもつCIO(情報統括責任者)など高度な専門的職業人や研究者として活躍することが期待されます。

◆メディアデザイン教育研究分野◆

デジタル技術を活用した各種コンテンツ制作に必要な専門知識と情報化社会に求められる幅広い教養を兼ね備えた人材を養成します。修了後の進路は、CG映像制作者やWebデザイナー、メディア・デザイナー、次世代サービス開発における専門的職業人および研究技術者、行政や企業の広報部門といった幅広い分野での活躍が期待されます。

心理学専攻

本専攻では、実験心理学に関連する最先端の研究施設や臨床心理センターを活用して、基礎心理学と臨床心理学の両面から、少人数による徹底した教育・研究を行っています。人間の行動を科学的に解明し、高度な専門知識と技能を持った研究技術者や公認心理師(国家資格)、臨床心理士を養成することに主眼を置いています。

◆実験心理学教育研究分野◆

認知科学について深く学び、最新の研究技法を駆使して自ら研究を進めていくことができる研究技術者を養成します。修了者の進路としては、大学、企業の研究機関において活躍できる研究者・研究技術者や心理職公務員などが想定されています。

◆臨床心理学教育研究分野◆

臨床心理学についての専門的な知識と、心理臨床にかかわる場合の姿勢を学び、高度な専門性を求められる職業人としての公認心理師(国家資格)や臨床心理士(第1種指定校)を養成します。また、臨床心理学教育研究分野の大学院生の臨床実習施設として「埼玉工業大学臨床心理センター」が設置されています。

2. 人間社会研究科指導内容

情報社会専攻

情報社会システム

教育研究分野

高度の行政知識・経営知識と情報技術を駆使しうる能力の育成を基盤として、知識基盤社会で求められている豊かな創造力と構想力を備えたITプロジェクト・マネージャーやITコンサルタント、さらには、企業経営とIT戦略の双方に責任を持つCIO（Chief Information Officer、情報統括責任者）などの分野で活躍が期待できる人材を養成します。

村山 要司 教授	博士(工学) (日本大学)
◆研究テーマ例 デジタルマーケティング 最適化、シミュレーション ビジネスプロセスの効率化	
◆研究指導内容概略 経営における諸問題に対してコンピュータサイエンスを用いて解決を図る。マーケティング戦略、生産・流通マネジメントやビジネスプロセス等の広範囲な実問題に対し、モデリング及び最適化や、その解法としてのAI(機械学習)、遺伝的アルゴリズム、群知能等の応用をテーマとして、研究指導を行う。	
◆略歴・学会活動等 東芝情報システム株式会社、その後ITベンチャー代表取締役社長、日本大学生産工学部非常勤講師等を経て令和3年本学教授就任。 日本情報ディレクトリ学会、日本ロジスティクスシステム学会会員	

高橋 広治 教授	博士(理学) (京都大学)
◆研究テーマ例 星団の進化 コンピュータ・シミュレーション データ解析	
◆研究指導内容概略 高度情報社会である現代においては、膨大な量のデータが刻々と生み出されている。そのようなデータを、人間にとって有用な真に生きた情報として活用するためには、各々の問題に合った適切なデータ処理を高速に行うことができる情報システムが必要不可欠である。そのようなシステムの構築を目指して、コンピュータを使った検索、分類、統計解析、データマイニングなどの様々なデータ処理の手法の開発や、それらの手法を応用した社会現象の分析などをテーマとした研究指導を行う。	
◆略歴・学会活動等 日本学術振興会特別研究員、東京大学大学院リサーチ・アソシエイト等を経て、平成14年本学助教授就任。平成25年現職。 日本天文学会、国際天文学連合(IAU)、情報処理学会会員	

本吉 裕之 教授	経営管理修士 (早稲田大学)
◆研究テーマ例 経営企画/新規ビジネス企画構築 ツーリズム/ホスピタリティ/地方創生	
◆研究指導内容概略 「人の心を掴み、感動を与える」ビジネスやサービスを研究。様々な事例や失敗例、時間軸発想・社会心理などがもたらす消費行動からアイデアを生み出す「目的展開」をベースに研究指導を行う。地域連携活動において、自走する収益モデルの構築を実践。	
◆略歴・学会活動等 JTB、株式会社一休(一休.com)、東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科 准教授を経て、令和3年本学准教授就任。令和7年より現職。 失敗学会、日本マーケティング学会会員 福島県只見町観光公社取締役、深谷商店街連合会顧問 本学地域連携センター長	

林 信義 教授	修士(経営学) (横浜国立大学)
◆研究テーマ例 ビジネスモデル 経営管理/コーポレート・ガバナンス	
◆研究指導内容概略 企業が持続的に成長していくためには顧客に対して他社よりも優れた価値を提供することが必要である。企業はこのような優位性を獲得することを目指して、開発、生産、物流、販売などの活動を行っている。実際の企業活動を調査分析し、優れたビジネスモデルについて研究指導を行う。	
◆略歴・学会活動等 株式会社日本総合研究所を経て、平成27年本学教授就任。 日本ビジネスモデル学会	

茂木 勇	教授	博士(工学) (東京工業大学)
◆研究テーマ例 地域マネジメントと事業評価 地域マネジメントにおけるICT技術の活用 地域づくり人材の育成 など ◆研究指導内容概略 人口減少期に突入した我が国では、持続可能な地域社会が求められており、都市計画や福祉、教育、観光等の諸分野で、地域マネジメント手法が導入されている。一方、地域の実情としては、地域資源が縮小した結果、各活動主体の負担が課題となっており、持続可能な地域マネジメントのあり方が問われている。研究指導にあたっては、実際の地域活動事例を調査・分析し、望ましい地域マネジメントについて考究することとしたい。 ◆略歴・学会活動等 住友信託銀行㈱、前橋市役所を経て、令和7年本学教授就任。 日本都市計画学会、日本地域政策学会会員		

李 艶 紅	准教授	博士(法学) (早稲田大学)
◆研究テーマ例 株式会社法制における種類株式制度 株式の所有構造と会社支配権のあり方 証券市場における上場規制など ◆研究指導内容概略 株式会社は、経済社会の担い手であり、また重要な構成要素でもある。経済社会が国際情勢、環境問題など様々な問題に直面している今日において、株式会社に關する法制度のあり方はますます重要な研究分野となってきた。研究指導内容は会社法分野のテーマを中心に行うが、学生の関心のあるテーマに沿って、幅広く調査・研究し、法制度のあり方を深掘りしていく。 ◆略歴・学会活動等 早稲田大学法学術院比較法研究所・助手、日本証券業協会・招聘研究員、税務大学校、立教大学経済学部および清和大学法学部・非常勤講師などを経て、平成30年本学講師就任。令和4年より現職。 日本私法学会会員 東京商事法研究会会員		

メディア・デザイン

教育研究分野

現代の文化状況及び情報科学の研究状況を踏まえ、コンピューター・グラフィックス、コンピューター・ミュージック、マルチメディアなどに関する最先端のスキルの学修を基礎に、映像と音響というコンテンツ作製における主要な2領域において少人数の徹底した指導を行うことにより、単に個としての表現者にとどまらず、行政や企業の広報部門、マスコミなど、変化し発展する現代社会の多くの新しい領域で活躍ができる人材を養成します。

山路 康文 教授	修士(美術学) (東京藝術大学)
◆研究テーマ例 プロダクトデザイン、UX/UIデザイン、CMFデザイン、商品企画開発、STEAM教育、地域格差の課題解決、医療機器開発(秋田大学連携研究)	
◆研究指導内容概略 様々な領域の製品開発にかかるプロダクト・グラフィック・UX/UI・色彩戦略デザインを担当してきた経験から、ハード・ソフト・サービスまで融合した製品開発の進め方や表現手法を指導します。実際の製品デザインの開発工程に基づいた学習・研究を通じて、製品開発に必要な「問題発見力」「企画立案力」「表現力(可視化力・プレゼンテーション力)」などを高めます。 学生の指向や方針によって「3Dデリング&プリント技術習得」「デザイン思考(問題発見&企画力)習得」その他関連技術や思考習得など、出来るだけ個別に対応します。	
◆略歴・学会活動等 SONY株式会社にてTV・オーディオ・カメラ・色彩戦略などのデザインを担当後、株式会社ガイナにて生活雑貨全般のデザインを担当。2015年神輿のIT企業にてC/I事業開発を担当しつつ東京藝術大学非常勤講師を18年間担当。2017年秋田公立美術大学准教授、2019年横浜美術大学プロダクトデザインコース准教授、東京家政大学、日本生産工学部非常勤講師を経て、2025年より本学教授就任。2016年より総合的なデザイン業務を行う個人事業主として様々なクライアントのデザイン業務を担当。	

森 沢 幸 博 教授	修士 (メディアデザイン学) (慶應義塾大学)
◆研究テーマ例 コンピューター・グラフィックス、ヒューマンコンピュータインタラクション、インタラクティブメディア	
◆研究指導内容概略 人間の感覚を拡張するデジタル技術の発展によって、アート表現やコミュニケーション手法は大きく変化する可能性を持っている。物質的な世界とデータをつなぐメディアウムの融合によって生み出されるインスタレーションやCG映像、XR(extended reality)アート、グラフィックデザイン等の制作を通じて、次世代の情報化社会に求められる専門知識や創造性に関する研究指導を行う。	
◆略歴・学会活動等 埼玉女子短期大学大学准教授、玉川大学リベラルアーツ学部非常勤講師を経て、平成27年本学准教授就任。 情報処理学会、ヒューマンインタフェース学会所属 財団法人画像情報教育振興協会認定CG講師	

平田 文子 准教授	博士(文学) (神戸大学)
◆研究テーマ例 社会学, 社会思想	
◆研究指導内容概略 フランス社会学の祖といわれるエミール・デュルケームは、社会の統合と個人のエゴイズムの関係から自殺における3つの社会的風潮を説きました。 個人と社会は切り離し不可能な関係にあります。両者の相互作用によって起こる現象について考察し、社会思想の系譜を研究します。	
◆略歴・学会活動等 早稲田大学、東海大学などで教職課程科目の非常勤講師を経て2020年度から本学に就任。	

岡本 陸 講師	修士(工学) (千葉工業大学)
◆研究テーマ例 デザイン学, 情報デザイン, コミュニケーションデザイン, 創造的自己信念	
◆研究指導内容概略 情報デザインは、デジタル空間において「情報を適切に伝達し、人間の行動を支援する」役割がある。しかし近年は、現実空間における人間同士、あるいは生成AIとのインタラクションのカチナすらも情報デザインの対象となってきた。 グラフィックデザイン、UI設計等の制作を通じて、制作物そのものだけではなく、制作プロセスのあり方を含めた情報のカチのあり方を探究する。	
◆略歴・学会活動等 千葉工業大学大学院工学研究科工学専攻博士課程所属、神田外語学院でデザイン科目の非常勤講師を経て、2025年度から本学に就任。 日本デザイン学会所属	

◆ 情報社会専攻授業科目 ◆

専攻共通科目

情報セキュリティ特論	情報社会特別演習Ⅰ
知識情報特論	情報社会特別演習Ⅱ
知識情報特別演習	
教育文化研究特論	

情報社会システム教育研究分野

システム開発方法特論	<特別研究（修士論文）> 情報社会システム創造プロジェクト特別演習Ⅰ 情報社会システム創造プロジェクト特別演習Ⅱ 情報社会システム創造プロジェクト特別演習Ⅲ 情報社会システム創造プロジェクト特別演習Ⅳ
シミュレーション特論	
ネットワーク・システム特論	
地域情報化特論	
経営情報システム特論	
経営判断システム特論	
企業法特論Ⅰ	
企業法特論Ⅱ	
企業戦略特論	

メディアデザイン教育研究分野

ヒューマン・インターフェース特論	<特別研究（修士論文）> 情報表現特別演習Ⅰ 情報表現特別演習Ⅱ 情報表現特別演習Ⅲ 情報表現特別演習Ⅳ
知覚心理学特論	
イメージ創造特論	
マルチ・メディア情報処理特論	
映像情報特論	
デザイン・アート表現特論	

心理学専攻

実験心理学

教育研究分野

実験心理学教育研究分野では、知覚や思考などの情報処理プロセスを研究する認知科学を軸に、心を生み出す脳の仕組みや働きを研究する脳科学、人間行動の基本原理を研究する行動科学などの専門的なカリキュラムが構成されています。これにより、最先端の実験心理学研究に寄与する研究技術者の養成を図るとともに、心理学関連の専門職(心理職公務員等)への就職あるいは大学院博士課程に進学し、研究者となることが可能な人材を教育することを目指しています。

河原 哲雄 教授 教育学修士(東京大学)

- ◆研究テーマ例
文章理解と知識獲得／言語獲得過程の計算モデル／アナロジーによる問題解決／メタファ理解過程の実験的研究／意思決定過程の強化学習モデル
- ◆研究指導内容概略
人間が経験からの帰納によって知識や技能、言語能力などを獲得するオンライン認知過程を、心理学実験やコンピュータ・シミュレーション、理論的検討などの手法を用いて研究する。
また、獲得された知識や技能、能力の現実場面における使用過程や、それらが現実場面において有効に機能するための条件といった教育的含意についても研究する。これらの研究領域における最先端の研究を遂行するために必要な、研究計画法やデータ解析法、シミュレーション技法や、各種の実験機器の使用法などについても研究・指導する。
- ◆略歴・学会活動等
東京大学大学院助手を経て、平成15年度本学助教就任、平成24年度より現職。
日本心理学会、日本認知科学会、日本認知心理学会、日本教育心理学会、日本基礎心理学会、人工知能学会、日本犯罪心理学会、日本願学会

大塚 聡子 教授 博士(心理学)(東京大学)

- ◆研究テーマ例
奥行き知覚の時空間特性
観察者の運動と視対象認知
視覚の注意
- ◆研究指導内容概略
奥行き(3次元的な空間構造)を知覚する機構の解明に関する教育指導を行う。人間の視覚系は、奥行きを知覚するために、両眼視差(2つの目の間の網膜像のずれ)や運動視差(観察者の運動により生じる網膜像の動きなど複数の手がかりによる情報を統合していると考えられている。本研究室では、心理学的手法により、これらの手がかり情報を処理し統合する機構を明らかにする研究を行う。また、観察者の探索的な身体運動や眼球運動が奥行き知覚や視対象認知に及ぼす影響についても扱う。
- ◆略歴・学会活動等
東京大学IML研究機関研究員等を経て、平成14年度本学講師就任、平成17年度准教授、平成26年度より現職。
日本心理学会、日本基礎心理学会、日本視覚学会、日本認知心理学会、アメリカ心理学会等

泉 水 清 志 教授 修士(心理学)(青山学院大学)

- ◆研究テーマ例
倫理的消費とクチコミ・SNS・コミュニケーションスキルの関連性
クチコミ・SNSの共感が消費者行動に及ぼす影響
異文化共生社会における友人関係
- ◆研究指導内容概略
現代の人や社会の特徴を社会心理学的視点から研究を行う。
ビジネス場面や日常生活における興味や関心に基づき、消費者行動、産業・組織心理、ソーシャル・メディア(SNS)、コミュニケーション、対人関係など、様々な心理や行動をデータに基づいて研究する。倫理的(エシカル)消費、SDGs、サステナブル、eスポーツ、地域貢献など、これらに社会に役立つ内容を幅広く扱う。
- ◆略歴・学会活動等
洗足学園大学非常勤講師、青山学院大学非常勤講師、東京都杉並区「心の教室相談員」、育英短期大学専任講師、准教授、教授を経て令和7年度より本学教授就任。
この他、医療系専門学校講師、企業や自治体との産学・地域連携活動、肢体不自由児教育研究会講師、上毛新聞オピニオン委員など社会貢献活動を行ってきた。
日本心理学会、日本社会心理学会、日本感情心理学会、日本広告学会

臨床心理学

教育研究分野

「公認心理師」と「臨床心理士」養成カリキュラム

この教育分野は、平成29年9月に施行された「公認心理師法」により、国家資格である公認心理師カリキュラムに則した授業科目を用意しており、当該科目を履修し、修士課程を修了することで、公認心理師の受験資格が得られます。また、臨床心理士資格認定協会の規定する第1種臨床心理養成課程の指定も受けています。大学付属の臨床心理センターに心理相談室を設けて、一般の外来相談を受けて、教員及びカウンセラーの指導のもとに、大学院生の心理臨床の実習を行います。*学部ですべての公認心理師指定科目の単位を取得している（もしくは特例措置を受ける）必要があります。

伊藤 淳子 教授	修士(人間科学) (東洋英和女学院大学) 臨床心理士・公認心理師
◆研究テーマ例	イメージ/表現されたものを用いたこころの理解 心理療法過程について/心理療法における関係性
◆研究指導内容概略	心理療法における対象者との関係性について、及びイメージや表現されたもの(描画、夢、箱庭など)を通じたこころの理解について研究指導を行う。 また、学校領域を対象とする研究についても扱ふ。
◆略歴・学会活動等	総合商社にて経理・広報業務に従事した後、心療職に就く 教育相談、スクールカウンセラー、学生相談、山王教育研究所カウンセラー 杏林大学准教授を経て令和4年度本学准教授着任。 令和6年度より現職。 日本心理臨床学会、日本箱庭療法学会、日本学生相談学会、 日本精神分析学会、日本エング心理学会

村中 昌紀 准教授	博士(心理学) (日本大学) 臨床心理士・公認心理師
◆研究テーマ例	産業労働領域におけるメンタルヘルスの問題 パーソナリティと対人関係、抑うつに及ぼす影響について
◆研究指導内容概略	パーソナリティなどの要因が対人関係やストレスや抑うつなど心の健康との関連などについて臨床心理学、社会心理学の観点から検討を行う。 特に産業労働分野で問題となりやすいメンタルヘルスの問題やキャリア発達とメンタルヘルスとの関連について関心を持っている。 研究の方法としてはデータに基づく実証的研究を重視している。
◆略歴・学会活動等	医療法人育生会脳病病院、日新電機株式会社前橋製作所、 群馬労働局嘱託、群馬県警察嘱託、相模女子大学非常勤講師、 静岡福祉大学専任講師を経て、令和3年度より本学講師就任。 令和5年度より現職。 日本心理学会、日本心理臨床学会、日本パーソナリティ学会

滝澤 毅矢 准教授	博士(医学) (北里大学) 臨床心理士・公認心理師
◆研究テーマ例	認知症のある方と家族及び介護等専門職への心理的支援に関する研究 心理検査を用いた心理状態及び精神症状に関する研究 精神疾患並びに自殺関連行動及び自殺予防に関する研究
◆研究指導内容概略	子どもから老年期まで幅広い年代を対象とする心の健康について、臨床心理学の観点から調査を展開していく。また、投映法を中心とした各種心理検査を用いて、パーソナリティ、知的活動全般及び心の健康に関する理解を深めていく。その他、当事者に限らず様々な専門職の支援等、地域における心理臨床的支援方法に関する実践的研究も一つのテーマとしている。
◆略歴・学会活動等	北里大学医学部寄附講座地域児童精神科医療学特任助教、北里大学東病院、明星大学心理学部非常勤講師、北里大学医学部精神科学助教、東芝林間病院、北里大学大学院医療系研究科医療心理学専任講師〔嘱託〕を経て、令和5年度より本学講師就任。令和7年度より現職。 日本心理臨床学会、日本心理学会、日本老年精神医学会、 日本児童青年精神医学会

田中 崇恵 講師	博士(教育学) (京都大学) 臨床心理士・公認心理師
◆研究テーマ例	現代における意識・心のありように関する研究 心理臨床過程における「実存」について、「異」なるものと心理臨床 青年期の心理臨床的課題や学生相談に関する研究
◆研究指導内容概略	現代という時代における人の意識や心のありようの特徴について研究を行う。 特に、サイバー空間から無意識にわたる現実の多層性について関心がある。 現在はオンラインカウンセリングを1つのトピックとしている。 その他、心理臨床の過程に関する研究や青年期における心理臨床的課題についても研究テーマとしている。
◆略歴・学会活動等	フェリス女学院大学学生相談員、東京大学学生相談ネットワーク本部助教、筑波大学人間系・学生相談室助教を経て、令和5年度より本学講師就任。この他、ウエノ診療所、熊谷神経クリニックなど医療機関での臨床実践も行ってきた。日本心理臨床学会、日本箱庭療法学会、 日本エング心理学会、日本学生相談学会

◆研究テーマ例

インクルーシブな保育、教育の実現に資するコミュニティ支援
福祉制度にとらわれないインフォーマルな社会資源の活用の有効性
公認心理師の方向性である専門職連携(IPW)の推進

◆研究指導内容概略

コミュニティ心理学の視点から、地域ニーズを拾い上げ、調査を行っていく。
また、アクションリサーチの手法で質的研究や実践研究を中心とし、保育所・
学校・障害者支援等の現場に出向き、支援方法の検討とコンサルテーション
を行う中で支援の有効性を明らかにしていく。当事者の方との信頼関係を
ベースにしながら、福祉臨床にふさわしい方法論を取っていく。

◆略歴・学会活動等

深谷市教育委員会 教育研究所、埼玉県立特別支援学校非常勤講師、
埼玉県スクールカウンセラー、社会福祉法人 昂(常勤心理師)、埼玉工業
大学非常勤講師を経て令和6年度より本学講師就任。
日本心理臨床学会、コミュニティ心理学会、日本福祉心理学会

◆ 心理学専攻授業科目 ◆

実験心理学教育研究分野

実験心理学特別輪講Ⅰ
実験心理学特別輪講Ⅱ
認知心理学特論
知覚心理学特論
学習心理学特論
心理学研究法特論
社会心理学特論
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開
福祉分野に関する理論と支援の展開

保健医療分野に関する理論と支援の展開
産業・労働分野に関する理論と支援の展開
心の健康教育に関する理論と実践
認知心理学特別演習
知覚心理学特別演習
社会心理学特別演習

実験心理学特別実験Ⅰ
実験心理学特別実験Ⅱ
＜特別研究（修士論文）＞

臨床心理学教育研究分野

※臨床心理学特論Ⅰ
※臨床心理学特論Ⅱ
※臨床心理面接特論Ⅰ
（心理支援に関する理論と実践）
※臨床心理面接特論Ⅱ
心理学研究法特論
臨床心理学研究法特別輪講

学習心理学特論
認知心理学特論
社会心理学特論
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開
福祉分野に関する理論と支援の展開
保健医療分野に関する理論と支援の展開
教育分野に関する理論と支援の展開
家族関係・集団・地域社会における心理
支援に関する理論と実践
心理療法特論
産業・労働分野に関する理論と支援の展開
心の健康教育に関する理論と実践

※臨床心理査定演習Ⅰ
（心理的アセスメントに関する理論と実践）
※臨床心理査定演習Ⅱ

※臨床心理基礎実習Ⅰ
※臨床心理基礎実習Ⅱ
※臨床心理実習Ⅰ
※臨床心理実習Ⅱ

※心理実践実習Ⅰ～Ⅳ
＜特別研究（修士論文）＞

※の科目は、他教育研究分野の学生は受講できません